

## 結果の概要

## 刑務所・拘置所等

## 1 被收容者

## (1) 收容状況

最近10年間の全国の刑務所及び拘置所の1日平均收容人員の推移は、第1表のとおりである。平成5年に増加に転じて以降、年々増加していたが、同20年から連続して減少しており、同28年は前年に比べ2,301人(3.9%)減少した57,369人(男52,565人、女4,805人)となっている。

第1表 1日平均收容人員の推移

区分	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
総数	80,684	78,533	76,019	74,232	71,378	68,565	64,890	61,768	59,670	57,369
男	75,490	73,271	70,794	68,948	66,046	63,238	59,718	56,734	54,689	52,565
女	5,194	5,262	5,224	5,284	5,332	5,327	5,172	5,034	4,981	4,805
対前年比	0.4	-2.7	-3.2	-2.4	-3.8	-3.9	-5.4	-4.8	-3.4	-3.9

(注) 刑務所・拘置所等(以下記載を省略)の2表(法務省ホームページにおける統計表番号「16-00-02」)。以下統計表番号のみを記載参照

平成28年における1日平均收容人員の内訳は、第2表のとおりである。被收容者の種別で見ると、受刑者が50,237人(87.6%)、次いで、被告人が6,138人(10.7%)、労役場留置者が774人(1.3%)の順となっている。

第2表 1日平均收容人員の内訳

区分	総数	受刑者	死刑確定者	被告人	被疑者	労役場留置者	その他
人員	57,369	50,237	127	6,138	89	774	4
(構成比)	(100.0)	(87.6)	(0.2)	(10.7)	(0.2)	(1.3)	(0.0)
対前年比	-3.9	-3.7	-0.8	-4.9	7.2	-4.0	-

(注) 1表(「16-00-01」)及び2表(「16-00-02」)参照

## (2) 年末收容人員

最近10年間の年末における收容人員の推移は、第3表のとおりである。收容率(年末における收容定員に対する年末收容人員の比率)は、平成13年から同18年まで6年連続して100%を超過していたが、同19年から9年連続して收容定員を下回っている。

第3表 年末收容人員の推移

区分	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
年末收容人員	79,809	76,881	75,250	72,975	69,876	67,008	62,971	60,486	58,497	55,967
收容定員	85,214	87,754	90,354	90,182	90,547	90,681	90,536	90,146	89,807	89,395
收容率	93.7	87.6	83.3	80.9	77.2	73.9	69.6	67.1	65.1	62.6

(注) 3表(「16-00-03」)参照

## (3) 入・出所人員

最近10年間の入・出所人員の推移は、第4表のとおりである。刑務所及び拘置所の入所人員は、平成16年以降減少し、同28年は前年に比べ人(4.9%)減少した39,043人(男35,208人、女3,835人)となっている。出所人員も、平成17年以降減少し、同28年は前年に比べ1,476人(3.4%)減少した41,573人(男37,546人、女4,027

人) となっている。

第4表 入・出所人員の推移

区分	平成19年	20	21	22	23	24	25	26	27	28
入所人員 (指数)	57,491 (100)	54,923 (96)	53,437 (93)	51,924 (90)	49,109 (85)	46,977 (82)	43,379 (75)	41,838 (73)	41,060 (71)	39,043 (68)
出所人員 (指数)	58,937 (100)	57,851 (98)	55,068 (93)	54,199 (92)	52,208 (89)	49,845 (85)	47,416 (80)	44,323 (75)	43,049 (73)	41,573 (71)

(注) 14表(「16-00-14」)参照

#### (4) 外国人被収容者

最近10年間の年末収容人員のうち、外国人被収容者人員の推移は、第5表のとおりである。平成28年の年末における外国人被収容者人員は、前年に比べ185人(5.7%)減少した3,041人となり、外国人受刑者人員は、179人(6.7%)減少した2,491人となっている。

区分	平成19年	20	21	22	23	24	25	26	27	28
年末収容人員(A)	79,809	76,881	75,250	72,975	69,876	67,008	62,971	60,486	58,497	55,967
うち、外国人被収容者人員(B)	5,919	5,353	5,027	4,803	4,433	4,012	3,657	3,445	3,226	3,041
うち、外国人受刑者人員	5,139	4,681	4,371	4,113	3,813	3,368	3,044	2,848	2,670	2,491
年末収容人員に占める比率 [(B)/(A)×100]	7.4	7.0	6.7	6.6	6.3	6.0	5.8	5.7	5.5	5.4

(注) 3表(「16-00-03」)及び8表(「15-00-08」)参照

平成28年の年末在所外国人被収容者の内訳は、第6表のとおりである。

このうち、来日外国人は2,056人であり、外国人被収容者年末収容人員に占める割合は67.6%となっている。

第6表 年末在所外国人被収容者の内訳

区分	総数	受刑者	未決拘禁者	その他
外国人被収容者 年末収容人員		3,041	2,491	459
うち、来日外国人	2,056	1,630	339	87

(注) 8表(「16-00-08」)及び9表(「16-00-09」)参照

平成28年の年末在所来日外国人被収容者の国籍は、第7表のとおりである。国籍別の人員総数は、中国が532人(25.9%)と最も多く、次いで、ブラジルが246人(12.0%)、ベトナムが153人(7.5%)、イランが153人(7.4%)の順となっている。

第7表 年末在所来日外国人被収容者の国籍

区分	総数	中国	ブラジル	ベトナム	イラン	韓国・朝鮮	フィリピン	ナイジェリア	メキシコ	タイ	ペルー	アメリカ合衆国	その他
人員総数	2,056	532	246	155	153	102	102	75	71	71	63	58	428
男	1,739	461	235	125	152	85	60	75	55	21	54	48	368
女	317	71	11	30	1	17	42	-	16	50	9	10	60
構成比率													
総	100.0	25.9	12.0	7.5	7.4	5.0	5.0	3.6	3.5	3.5	3.1	2.8	20.8
男	100.0	26.5	13.5	7.2	8.7	4.9	3.5	4.3	3.2	1.2	3.1	2.8	21.2
女	100.0	22.4	3.5	9.5	0.3	5.4	13.2	-	5.0	15.8	2.8	3.2	18.9

(注) 9表(「16-00-09」)参照

## 2 新受刑者

### (1) 新受刑者の収容状況

最近10年間の新受刑者人員の推移は、第8表のとおりである。新受刑者人員の総数は平成4年から同18年まで15年連続して増加していたが、平成19年から10年連続して減少しており、同28年は前年と比べ1072人（5.0%）減少した20,467人（男18,462人、女2,005人）となっている。

第8表 新受刑者人員の推移

区	分	平成19年	20	21	22	23	24	25	26	27	28		
人	総	員	数	30,450	28,963	28,293	27,079	25,499	24,780	22,755	21,866	21,539	20,467
				男	28,272	26,768	26,123	24,873	23,273	22,555	20,643	19,744	19,415
	女	2,178	2,195	2,170	2,206	2,226	2,225	2,112	2,122	2,124	2,005		
指	総	数	数	100	95	93	89	84	81	75	72	71	67
				男	100	95	92	88	82	80	73	70	69
	女	100	101	100	101	102	102	97	97	98	92		

(注) 18表（「16-00-18」）参照

### (2) 新受刑者の年齢

平成28年における新受刑者の年齢別人員は、第9表のとおりである。これを総数の構成比で見ると、40～44歳が14.2%（2,900人）と最も高く、次いで45～49歳が13.5%（2,696人）、35～39歳が12.1%（2,485人）の順となっている。

第9表 新受刑者の年齢別人員

区	分	総数	20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上		
人	総	員	数	20,467	30	1,095	1,745	2,230	2,485	2,900	2,696	2,050	1,486	1,252	1,301	1,197
				男	18,462	28	1,032	1,608	2,053	2,237	2,572	2,426	1,877	1,351	1,143	1,164
	女	2,005	2	63	137	177	248	328	270	173	135	109	137	226		
構	成	比	率	100.0	0.1	5.4	8.5	10.9	12.1	14.2	13.2	10.0	7.3	6.1	6.4	5.8
				男	100.0	0.2	5.6	8.7	11.1	12.1	13.9	13.1	10.2	7.3	6.2	6.3
	女	100.0	0.1	3.1	6.8	8.8	12.4	16.4	13.5	8.6	6.7	5.4	6.8	11.3		
前	年	比	率	-5.0	-16.7	-6.1	-10.8	-6.4	-5.9	-7.1	-2.8	-4.7	-8.4	-9.0	5.1	11.3
				男	-4.9	-15.2	-6.5	-10.5	-6.0	-5.5	-7.5	-1.7	-3.7	-8.8	-9.0	5.8
	女	-5.6	-33.3	1.6	-13.8	-11.5	-8.8	-3.5	-11.5	-14.4	-4.9	-9.2	-0.7	24.9		

(注) 22表（「16-00-22」）参照

また、最近10年間の新受刑者のうち60歳以上人員の推移は、第10表のとおりである。平成28年における新受刑者のうち60歳以上人員の総数は、前年と比べ61人（1.7%）増加した3,750人（男3,278人、女472人）となっている。

第10表 新受刑者のうち60歳以上人員の推移

区	分	平成19年	20	21	22	23	24	25	26	27	28		
人	総	員	数	3,727	4,017	4,056	4,093	4,069	4,127	3,962	3,771	3,689	3,750
				男	3,437	3,670	3,673	3,699	3,639	3,681	3,507	3,314	3,250
	女	290	347	383	394	430	446	455	457	439	472		
構	成	比	率	12.2	13.9	14.3	15.1	16.0	16.7	17.4	17.2	17.1	18.3
				男	12.2	13.7	14.1	14.9	15.6	16.3	17.0	16.8	16.7
	女	13.3	15.8	17.6	17.9	19.3	20.0	21.5	21.5	20.7	23.5		

(注) 22表（「16-00-22」）参照

(3) 新受刑者の罪名

平成28年における新受刑者の罪名別人員は、第11表のとおりである。これを、罪名別の総数の構成比で見ると、窃盗が33.4%（6,837人）と最も高く、次いで、覚せい剤取締法違反が27.3%（5,580人）、詐欺が9.7%（1,980人）、傷害が4.8%（988人）、道路交通法違反が4.6%（950人）、強制わいせつ・強姦が2.7%（548人）の順となっている。

第11表 新受刑者の罪名別人員

区分	分	総数		男		女	
		総数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
総	数	20,467	100.0	18,462	100.0	2,005	100.0
刑	犯	12,980	63.4	11,797	63.9	1,183	59.0
放	火	154	0.8	134	0.7	20	1.0
文	等	72	0.4	67	0.4	5	0.2
強	強姦	548	2.7	547	3.0	1	0.0
制	わいせつ	17	0.1	15	0.1	2	0.1
博	賭博	218	1.1	180	1.0	38	1.9
殺	殺人	988	4.8	956	5.2	32	1.6
傷	傷害	62	0.3	59	0.3	3	0.1
危	致死	261	1.3	241	1.3	20	1.0
過	過失	6,837	33.4	5,926	32.1	911	45.4
窃	窃盗	414	2.0	406	2.2	8	0.4
強	強盗	1,980	9.7	1,880	10.2	100	5.0
詐	詐欺	152	0.7	150	0.8	2	0.1
恐	脅迫	267	1.3	242	1.3	25	1.2
横	横暴	159	0.8	156	0.8	3	0.1
暴	暴力	851	4.2	838	4.5	13	0.6
そ	その他						
特	特別	7,487	36.6	6,665	36.1	822	41.0
銃	銃砲	84	0.4	84	0.5	-	-
砲	刀剣	17	0.1	11	0.1	6	0.3
類	所持	45	0.2	41	0.2	4	0.2
等	精神	5,580	27.3	4,842	26.2	738	36.8
取	取締	950	4.6	909	4.9	41	2.0
締	交通	10	0.0	10	0.1	-	-
法	認定	801	3.9	768	4.2	33	1.6
違	違反						
反	その他						

(注) 1 「強制わいせつ・強姦」にはそれぞれの致死傷を、「傷害」には傷害致死及び暴行を、「過失運転致死傷」には業務上過失致死傷及び重過失致死傷を、「強盗」には強盗致死傷及び強盗強姦・同致死を含む。

さらに、男女別に上位5位までの罪名で見ると、男は、窃盗、覚せい剤取締法違反、詐欺、傷害、道路交通法違反の順で、女は、窃盗、覚せい剤取締法違反、詐欺、道路交通法違反、殺人の順となっている。女の場合、覚せい剤取締法違反及び窃盗の構成比がおよそ80%を占めている点が大きな特徴である。

なお、最近10年間の新受刑者のうち、覚せい剤取締法違反の人員の推移は、第12表のとおりである。平成28年における覚せい剤取締法違反の人員総数は前年と比べ411人（6.9%）減少した5,580人（男4,842人、女738人）となっている。

第12表 新受刑者のうち覚せい剤取締法違反の人員の推移

区分	分	平成19年									
		20	21	22	23	24	25	26	27	28	
人	数	6,125	6,233	6,086	6,569	6,570	6,453	5,990	6,016	5,991	5,580
男		5,385	5,460	5,297	5,708	5,687	5,594	5,182	5,206	5,162	4,842
女		740	773	789	861	883	859	808	810	829	738
構	成										
比	数	20.1	21.5	21.5	24.3	25.8	26.0	26.3	27.5	27.8	27.3
男		19.0	20.4	20.3	22.9	24.4	24.8	25.1	26.4	26.6	26.2
女		34.0	35.2	36.4	39.0	39.7	38.6	38.3	38.2	39.0	36.8

(注) 18表（「16-00-18」）参照

## (4) 新受刑者の刑名・刑期

平成28年における新受刑者の刑名別人員は、第13表のとおりである。

区	分	総	懲	禁	禁	留	死	開
人	員	数	役	錮	拘	置		
		20,467	20,406	56	2	3		
(構成比)		(100.0)	(99.7)	(0.3)	(0.0)	(0.0)		

(注) 19表(「16-00-19」)参照

このうち、懲役及び禁錮受刑者の刑期別人員は、第14表のとおりである。懲役受刑者の刑期別人員は、2年以下が7,467人(36.6%)と最も多く、次いで、3年以下が5,035人(24.7%)、1年以下が4,303人(21.1%)となっている。禁錮受刑者については、2年以下が24人(42.9%)と最も多い。

区	分	総	1年以下	2年以下	3年以下	5年以下	5年を超える	無	期
懲	員	20,406	4,303	7,467	5,035	2,589	998	14	
人		(100.0)	(21.1)	(36.6)	(24.7)	(12.7)	(4.9)	(0.1)	
(構成比)									
禁	員	56	14	24	12	6	-	-	
人		(100.0)	(25.0)	(42.9)	(21.4)	(10.7)	(0.0)	(0.0)	
(構成比)									

(注) 19表(「16-00-19」)参照

## (5) 新受刑者の入所度数

平成28年における新受刑者の入所度数別人員は、第15表のとおりである。

区	分	総	初	2	3	4	5	6	6
人	員	数	度	度	度	度	度	度	度以上
		20,467	8,288	3,475	2,448	1,783	1,258	3,215	
(構成比)		(100.0)	(40.5)	(17.0)	(12.0)	(8.7)	(6.1)	(15.7)	
対前年比		-5.0	-5.1	-10.1	-2.7	-1.5	-5.0	-2.3	

(注) 23表(「16-00-23」)参照

次に、最近10年間の新受刑者のうち、初入者及び再入者人員の推移は、第16表のとおりである。初入者は、平成5年以降増加傾向を示していたが、同17年から減少し始めた。また、平成18年から11年連続して再入者が初入者を上回っている。

区	分	平成19年	20	21	22	23	24	25	26	27	28
総	数	30,450	28,963	28,293	27,079	25,499	24,780	22,755	21,866	21,539	20,467
初	入者	14,863	13,347	12,775	11,874	10,865	10,275	9,348	8,892	8,736	8,288
(構成比)		(48.8)	(46.1)	(45.2)	(43.8)	(42.6)	(41.5)	(41.1)	(40.7)	(40.6)	(40.5)
再	入者	15,587	15,616	15,518	15,205	14,634	14,505	13,407	12,974	12,803	12,179
(構成比)		(51.2)	(53.9)	(54.8)	(56.2)	(57.4)	(58.5)	(58.9)	(59.3)	(59.4)	(59.5)

(注) 23表(「16-00-23」)参照

(6) 新受刑者のうち初入受刑者の保護処分歴・刑の執行猶予歴

平成28年の新受刑者のうち、初入受刑者の保護処分歴・刑の執行猶予歴別人員は、第17表のとおりである。保護処分歴を有する者は1,254人（15.1%）、刑の執行猶予歴を有する者は5,553人（66.9%）となっている。

第17表 初入受刑者の保護処分歴・刑の執行猶予歴別人員

区分	総数	保護処分歴				刑の執行猶予歴		
		あり	少年院送致	児童自立支援施設・児童養護施設送致	保護観察なし	あり	なし	
人員 (構成比)	8,288 (100.0)	1,254 (15.1)	701 (8.5)	15 (0.2)	538 (6.5)	7,034 (84.9)	5,553 (67.0)	2,735 (33.0)

(注) 30表（「16-00-30」）参照

(7) 新受刑者のうち暴力団加入者人員

最近10年間の新受刑者のうち、暴力団加入者人員の推移は、第18表のとおりである。平成28年は前年に比べ53人減少した1,386人となっているものの、新受刑者に占める構成比は0.1ポイント上昇し、6.8%となっている。

第18表 新受刑者のうち暴力団加入者人員の推移

区分	平成19年	20	21	22	23	24	25	26	27	28
総数	30,450	28,963	28,293	27,079	25,499	24,780	22,755	21,866	21,539	20,467
人員 (構成比)	3,665 (12.0)	3,265 (11.3)	2,960 (10.5)	2,592 (9.6)	2,359 (9.3)	2,094 (8.5)	1,889 (8.3)	1,751 (8.0)	1,439 (6.7)	1,386 (6.8)

(注) 46表（「16-00-46」）参照

3 再入受刑者

(1) 再入受刑者の再犯期間

最近10年間の再入受刑者（前刑出所前の犯罪により再入所した者を除く。）の再犯期間（前回の刑の執行を受けて出所した日から再入に係る罪を犯した日までの期間）別人員の推移は、第19表のとおりである。平成28年は1年未満が4,465人（37.2%）と最も多く、次いで、2年未満が2,492人（20.7%）、5年以上が1,701人（14.2%）の順となっている。

第19表 再入受刑者の再犯期間別人員の推移

区分	総数	再犯期間											
		1年未満		2年未満		3年未満		4年未満		5年未満		5年以上	
		人員 (構成比)	うち、3月未満 人員 (構成比)	人員 (構成比)	人員 (構成比)	人員 (構成比)	人員 (構成比)	人員 (構成比)	人員 (構成比)	人員 (構成比)	人員 (構成比)	人員 (構成比)	
平成19年	15,402	6,389 (41.5)	1,982 (12.9)	3,244 (21.1)	1,802 (11.7)	1,049 (6.8)	740 (4.8)	2,178 (14.1)					
20	15,443	6,313 (40.9)	1,943 (12.6)	3,245 (21.0)	1,864 (12.1)	1,117 (7.2)	764 (4.9)	2,140 (13.9)					
21	15,355	6,289 (41.0)	1,951 (12.7)	3,293 (21.4)	1,820 (11.9)	1,084 (7.1)	779 (5.1)	2,090 (13.6)					
22	15,034	5,877 (39.1)	1,813 (12.1)	3,265 (21.7)	1,900 (12.6)	1,123 (7.5)	786 (5.2)	2,083 (13.9)					
23	14,464	5,719 (39.5)	1,722 (11.9)	3,076 (21.3)	1,871 (12.9)	1,124 (7.8)	735 (5.1)	1,939 (13.4)					
24	14,296	5,618 (39.3)	1,708 (11.9)	2,954 (20.7)	1,776 (12.4)	1,154 (8.1)	799 (5.6)	1,995 (14.0)					
25	13,233	5,177 (39.1)	1,457 (11.0)	2,804 (21.2)	1,647 (12.4)	1,007 (7.6)	742 (5.6)	1,856 (14.0)					
26	12,833	4,827 (37.6)	1,377 (10.7)	2,806 (21.9)	1,604 (12.5)	962 (7.5)	774 (6.0)	1,860 (14.5)					
27	12,626	4,733 (37.5)	1,334 (10.6)	2,663 (21.1)	1,577 (12.5)	1,034 (8.2)	784 (6.2)	1,835 (14.5)					
28	12,018	4,465 (37.2)	1,302 (10.8)	2,492 (20.7)	1,598 (13.3)	998 (8.3)	764 (6.4)	1,701 (14.2)					

(注) 54表（「16-00-54」）参照

## (2) 再入状況

平成23年の出所受刑者28,558人（国際受刑者移送法により送出移送した者を除く。）について、同28年末までの再入状況は、第20表のとおりである。平成28年までの6年以内に再入所した者は、計11,819人（41.4%）となっている。また、満期釈放と仮釈放の別に6年以内再入者を比較すると、満期釈放は7,235人（51.9%）、仮釈放は4,584人（31.4%）となっている。

第20表 平成22年出所受刑者の平成27年末までの再入状況

出所事由	平成23年出所受刑者	再入年別人員及び構成比								計					
		平成23年		24		25		26			27				
		人員	(構成比)	人員	(構成比)	人員	(構成比)	人員	(構成比)		人員	(構成比)			
総数	28,558	1,442	(5.0)	4,091	(14.3)	2,761	(9.7)	1,647	(5.8)	1,145	(4.0)	733	(2.6)	11,819	(41.4)
満期釈放	13,938	1,233	(8.8)	2,711	(19.5)	1,534	(11.0)	864	(6.2)	551	(4.0)	342	(2.5)	7,235	(51.9)
仮釈放	14,620	209	(1.4)	1,380	(9.4)	1,227	(8.4)	783	(5.4)	594	(4.1)	391	(2.7)	4,584	(31.4)

(注) 63表（「16-00-63」）及び64表（「16-00-64」）参照

## (3) 出所後6年以内に再入所した者の推移

出所後6年以内に再入所した者（出所受刑者のうち、国際受刑者移送法により送出移送した者を除く。）の推移は、第21表のとおりである。再入率については毎年低下していたものの、平成23年からの出所後6年以内再入率については、若干上昇している。

区 分	出 所 年									
	平成14年	15	16	17	18	19	20	21	22	23
出所受刑者	27,308	28,170	29,526	30,025	30,584	31,297	31,632	30,178	29,446	28,558
(うち、再入人員)	(12,594)	(12,751)	(13,143)	(13,266)	(13,305)	(13,387)	(13,365)	(12,659)	(12,079)	(11,819)
再入率	46.1	45.3	44.5	44.2	43.5	42.8	42.3	41.9	41.0	41.4

(注) 63表（「16-00-63」）及び64表（「16-00-64」）参照

#### 4 出所受刑者

##### (1) 出所受刑者の人員及び出所事由

最近10年間の出所受刑者の出所事由別人員の推移は、第22表のとおりである。平成28年における出所受刑者人員の総数は22,947人であり、前年に比べ619人(2.6%)減少している。これを男女別に見ると、男が20,738人(90.4%)、女が2,209人(9.6%)となっている。さらに、出所事由別に見ると、満期釈放が9,649人(42.0%)、仮釈放が13,260人(57.8%)、国際受刑者移送法による送受刑者が38人(0.2%)となっている。

第22表 出所受刑者の出所事由別人員の推移

区分	平成19年	20	21	22	23	24	25	26	27	28
人員数	31,341	31,680	30,213	29,461	28,583	27,485	26,535	24,684	23,566	22,947
男	29,187	29,431	28,029	27,294	26,308	25,188	24,186	22,459	21,293	20,738
女	2,154	2,249	2,184	2,167	2,275	2,297	2,349	2,225	2,273	2,209
指数	100	101	96	94	91	88	85	79	75	73
男	100	101	96	94	90	86	83	77	73	71
女	100	104	101	101	106	107	109	103	106	103
出所事由別										
満期釈放 (構成比)	15,465 (49.3)	15,792 (49.8)	15,324 (50.7)	14,975 (50.8)	13,938 (48.8)	12,763 (46.4)	11,887 (44.8)	10,726 (43.5)	9,953 (42.2)	9,649 (42.0)
仮釈放 (構成比)	15,832 (50.5)	15,840 (50.0)	14,854 (49.2)	14,471 (49.1)	14,620 (51.1)	14,700 (53.5)	14,623 (55.1)	13,925 (56.4)	13,570 (57.6)	13,260 (57.8)
送受刑等 (構成比)	44 (0.1)	48 (0.2)	35 (0.1)	15 (0.1)	25 (0.1)	22 (0.1)	25 (0.1)	33 (0.1)	43 (0.2)	38 (0.2)

(注) 67表(「16-00-67」)参照

##### (2) 出所受刑者のうち仮釈放者の刑の執行状況

###### ア 有期懲役受刑者

平成28年における有期懲役受刑者のうち仮釈放者13,002人(仮釈放が取り消されて刑の執行を受け、更に仮釈放を許された者を除く。)についての刑の執行率は、第23表のとおりである。刑の執行率80~89%が6,202人(47.7%)と最も多く、次いで、90%以上が4,329人(33.3%)となっている。

第23表 有期懲役受刑者のうち仮釈放者の刑の執行率

区分	総数	刑の執行率				
		59%以下	60~69%	70~79%	80~89%	90%以上
人員	13,002	0	172	2,299	6,202	4,329
(構成比)	(100.0)	(0.0)	(1.3)	(17.7)	(47.7)	(33.3)
対前年比	-2.2	-	-0.6	-6.5	-0.3	-2.2

(注) 70表(「16-00-70」)参照

有期懲役受刑者の仮釈放者のうち、刑の執行率80%以上の者についての刑期別人員は、第24表のとおりである。総数では10,531人(81.0%)、刑期1年以下では904人(89.1%)、2年以下では3,734人(77.4%)、3年以下では3,125人(78.9%)となっており、平成27年の総数10,644人(80.1%)と比べて執行率の高い者の割合が増加している。

第24表 有期懲役受刑者の仮釈放者のうち刑の執行率80%以上の刑期別人員

区分	総数	刑期				
		1年以下	2年以下	3年以下	5年以下	5年を超える
有期懲役仮釈放者	13,002	1,015	4,827	3,962	2,235	963
うち、刑の執行率80%以上の人員	10,531	904	3,734	3,125	1,872	896
有期懲役仮釈放者に占める比率	81.0	89.1	77.4	78.9	83.8	93.0

(注) 70表(「16-00-70」)参照



## イ 無期懲役受刑者

平成28年における無期懲役受刑者のうち仮釈放者（無期刑の仮釈放が取り消されて刑の執行を受け、更に仮釈放を許された者2人を除く。）7人について、その受刑在所期間は、第25表のとおりである。仮釈放者の平均受刑在所期間は約381月（31年9月）である。

第25表 無期懲役受刑者のうち仮釈放者の受刑在所期間

区分	総数	14年以下	15年以下	16年以下	17年以下	18年以下	19年以下	20年以下	20年を超える
人員 (構成比)	7 (100.0)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	7 (100.0)

(注) 69表（「16-00-69」）参照

## (3) 出所受刑者の刑務作業及び職業訓練など

平成28年における出所受刑者について、その在所時の刑務作業の業種別就業人員は、第26表のとおりである。業種別に見ると、経理作業（刑務所などの自主運営に必要な作業で、炊事、清掃、介助などの作業）が4,668人(20.3%)と最も多く、次いで、織物製品製造が2,847人(12.4%)、紙・紙製品製造が2,426人(10.6%)、化学製品製造が2,225人(9.7%)の順となっている。

第26表 出所受刑者の刑務作業の業種別就業人員

業種	人員	構成比	人員の対前年比
総数	22,947	100.0	-2.6
経理作業	4,668	20.3	-1.3
織物製品製造	2,847	12.4	-4.9
紙・紙製品製造	2,426	10.6	-11.1
化学製品製造	2,225	9.7	-0.9
紙細工	1,990	8.7	1.0
金属加工・機械組立修理	1,786	7.8	1.2
木工	953	4.2	-0.8
ゴム・可塑物製品製造	472	2.1	-4.8
印刷・製本	380	1.7	14.1
電気器具組立修理	360	1.6	-21.2
その他の技能工	355	1.5	1.4
皮革・皮革製品製造	317	1.4	4.3
金属材料製造	293	1.3	-26.4
飲食料品製造	222	1.0	-1.8
農耕・牧畜	130	0.6	-4.4
サービス	70	0.3	-2.8
建設作業	64	0.3	28.0
窯業・土石製品製造	53	0.2	29.3
その他	3,321	14.5	1.2
不就	15	0.1	-34.8

(注) 72表（「16-00-72」）参照

平成28年における出所受刑者の職業訓練種目別人員は、第27表のとおりである。総数3,632人（出所受刑者総数の15.8%）の、職業訓練修了者の受講種目の主な内訳を見ると、フォークリフト運転が384人（10.6%）と最も多く、次いで、情報処理が264人（7.3%）、溶接が232人（6.4%）、ビル設備管理が214人（5.9%）、販売サービスが178人（4.9%）の順となっている。

第27表 出所受刑者の職業訓練種目別人員

業種	人員	構成比
総数	3,632	100.0
フォークリフト運転	384	10.6
情報処理	264	7.3
溶接	232	6.4
ビル設備管理	214	5.9
販売サービス	178	4.9
小型建設機械	156	4.3
ホームヘルパ	143	3.9
CAD技術	113	3.1
建設機械	80	2.2
ビルハウスクリーニング	78	2.1
農業園芸	76	2.1
内装工事	54	1.5
クリーニング	47	1.3
理容	43	1.2
自動車整備	39	1.1
電気通信設備	33	0.9
その他	1,257	34.6
未修了者	241	6.6

(注) 73表（「16-00-73」）参照

平成28年における出所受刑者が取得した資格・免許の種類別人員は、第28表のとおりである。総数2,420人（出所受刑者総数の10.5%）の資格・免許の主な内訳を見ると、フォークリフト運転者が381人（15.7%）と最も多く、次いで、溶接技能者が187人（7.7%）、車両系建設機械運転技能者が174人（7.2%）、技能検定・技能照査が172人（7.1%）、ボイラー技士が169人（7.0%）の順となっている。

種類	人員	構成比
総数	2,420	100.0
フォークリフト運転者	381	15.7
溶接技能者	187	7.7
車両系建設機械運転技能者	174	7.2
技能検定・技能照査	172	7.1
ボイラー技士	169	7.0
危険物取扱者	152	6.3
CAD利用技術者	108	4.5
パソコン検定	107	4.4
ホームヘルパ一習	81	3.3
技能講習	77	3.2
ワープロ検定	70	2.9
情報処理技術者	69	2.9
理容師	41	1.7
クリーニング師	36	1.5
特別教	34	1.4
玉石工	25	1.0
電気工事士	25	1.0
その他	512	21.2

(注) 74表（「16-00-74」）参照

## (4) 出所受刑者の帰住先

平成28年における出所受刑者（満期釈放者及び仮釈放者）の出所事由別の帰住先は、第29表のとおりである。総数で見ると、親族のものが10,435人（45.5%）と最も多く、次いで、更生保護施設等が4,624人（20.2%）、知人のものが1,631人（7.1%）の順となっている。出所事由別で見ると、満期釈放では、親族のものが2,874人（29.8%）と最も多く、次いで、知人のものが657人（6.8%）となっている。仮釈放では、親族のものが7,561人（57.0%）、次いで、更生保護施設等が4,213人（31.8%）の順となっている。

第29表 出所受刑者の出所事由別の帰住先

帰住先	総数		満期釈放		仮釈放	
	人員	(構成比)	人員	(構成比)	人員	(構成比)
総数	22,909	(100.0)	9,649	(100.0)	13,260	(100.0)
親族のものと	10,435	(45.5)	2,874	(29.8)	7,561	(57.0)
父,母のものと	6,396	(27.9)	1,623	(16.8)	4,773	(36.0)
配偶者のものと	2,072	(9.0)	601	(6.2)	1,471	(11.1)
兄弟,姉妹のものと	1,126	(4.9)	370	(3.8)	756	(5.7)
その他の親族のものと	841	(3.7)	280	(2.9)	561	(4.2)
知人のものと	1,631	(7.1)	657	(6.8)	974	(7.3)
雇主のものと	258	(1.1)	94	(1.0)	164	(1.2)
社会福祉施設	470	(2.1)	416	(4.3)	54	(0.4)
更生保護施設等	4,624	(20.2)	411	(4.3)	4,213	(31.8)
上記に含まれない自宅	460	(2.0)	458	(4.7)	2	(0.0)
その他	5,031	(22.0)	4,739	(49.1)	292	(2.2)

(注) 84表（「16-00-84」）参照

## (5) 出所受刑者の懲罰回数

平成28年における出所受刑者の初入・再入別懲罰回数は、第30表のとおりである。在所時に懲罰を受けた者は11,473人（出所受刑者総数の50.0%）となっている。初入・再入別で見ると、初入で懲罰を受けた者は4,273人（出所受刑者のうち初入者総数の45.8%）であり、再入で懲罰を受けた者は7,200人（出所受刑者のうち再入者総数の52.9%）となっている。

第30表 出所受刑者の初入・再入別懲罰回数

区分	総数	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上	なし
総数 (構成比)	22,947 (100)	4,565 (19.9)	2,072 (9.0)	1,180 (5.1)	747 (3.3)	517 (2.3)	2,392 (10.4)	11,474 (50.0)
初入 (構成比)	9,337 (100)	1,936 (20.7)	795 (8.5)	417 (4.5)	243 (2.6)	153 (1.6)	729 (7.8)	5,064 (54.2)
再入 (構成比)	13,610 (100)	2,629 (19.3)	1,277 (9.4)	763 (5.6)	504 (3.7)	364 (2.7)	1,663 (12.2)	6,410 (47.1)

(注) 79表（「16-00-79」）参照

## 5 休養患者 — 被収容者のり病状況

平成28年における休養患者（医師の診断を受けた者のうち、医療上の必要により病室又はこれに代わる室に収容されて治療を受けた者）の人員は、既決拘禁者（受刑者、死刑確定者及び労役場留置者）が11,362人（男10,157人、女1,205人）、未決拘禁者（被告人、被疑者など）が435人（男399人、女36人）である。

このうち、既決拘禁者についての主要病名別転帰事由別人員は、第31表のとおりである。病名別で見ると、呼吸器系の疾患が3,754人（33.0%）と最も多く、次いで、筋骨格系・結合組織の疾患が1,529人（13.5%）、消化器系の疾患が1,271人（11.2%）の順となっている。また、総数を転帰事由別に見ると、治癒又は軽快が10,074人（88.7%）、後遺が356人（3.1%）の順となっている。

なお、休養患者の平均り病日数は、既決拘禁者が65日、未決拘禁者が482日となっている。

第31表 休養患者の主要病名別転帰事由別人員（既決拘禁者）

病名	総数	構成比	総数	転 帰 事 由				
				治癒又は軽快	死亡	未治出所	後遺	その他
総数	11,362	100.0	11,362	10,074	258	338	356	336
			(100.0)	(88.7)	(2.3)	(3.0)	(3.1)	(3.0)
感染症・寄生虫症	386	3.4	386	296	3	15	26	46
			(100.0)	(76.7)	(0.8)	(3.9)	(6.7)	(11.9)
新生物	588	5.2	588	303	102	46	42	95
			(100.0)	(51.5)	(17.3)	(7.8)	(7.1)	(16.2)
内分泌、栄養・代謝疾患	265	2.3	265	225	2	15	9	14
			(100.0)	(84.9)	(0.8)	(5.7)	(3.4)	(5.3)
精神・行動の障害	644	5.7	644	436	4	73	103	28
			(100.0)	(67.7)	(0.6)	(11.3)	(16.0)	(4.3)
神経系の疾患	189	1.7	189	154	2	14	14	5
			(100.0)	(81.5)	(1.1)	(7.4)	(7.4)	(2.6)
循環器系の疾患	660	5.8	660	480	61	47	34	38
			(100.0)	(72.7)	(9.2)	(7.1)	(5.2)	(5.8)
呼吸器系の疾患	3,754	33.0	3,754	3,674	31	12	24	13
			(100.0)	(97.9)	(0.8)	(0.3)	(0.6)	(0.3)
消化器系の疾患	1,271	11.2	1,271	1,145	23	38	20	45
			(100.0)	(90.1)	(1.8)	(3.0)	(1.6)	(3.5)
皮膚・皮下組織の疾患	405	3.6	405	390	-	7	7	1
			(100.0)	(96.3)	(-)	(1.7)	(1.7)	(0.2)
筋骨格系・結合組織の疾患	1,529	13.5	1,529	1,479	1	20	19	10
			(100.0)	(96.7)	(0.1)	(1.3)	(1.2)	(0.7)
腎尿路生殖器系の疾患	238	2.1	238	163	2	22	34	17
			(100.0)	(68.5)	(0.8)	(9.2)	(14.3)	(7.1)
損傷・中毒	253	2.2	253	226	10	8	4	5
			(100.0)	(89.3)	(4.0)	(3.2)	(1.6)	(2.0)
その他	1,180	10.4	1,180	1,103	17	21	20	19
			(100.0)	(93.5)	(1.4)	(1.8)	(1.7)	(1.6)

- (注) 1 既決拘禁者について調査したものである。  
2 「未治出所」とは、治癒に至らないうちに満期、仮釈放又は刑の執行停止により出所した者をいう。  
3 「後遺」とは、12月31日現在において未治癒の者をいう。  
4 「その他」とは、他の矯正施設に移送になった者等をいう。  
5 ( )内の数字は、各病名に対する転帰事由別構成比である。  
6 87表（「15-00-87」）及び88表（「15-00-88」）参照